

日本建築学会近畿支部2021年度若手研究部会 「昭和期市街地形成史研究部会」活動報告

主査：石樽督和（関西学院大学）
幹事：村上しほり（大阪公立大学）
部会員：荒木菜見子（米子高専）
中村景月（京都大学）
清山陽平（京都大学）
Lefebvre Eric（京都大学）
和田路（京都工芸繊維大学）
木村智（立命館大学）

本若手研究部会は「昭和期市街地形成史」をテーマに、都市の工業化、恐慌、旧都市計画法の全国への展開、戦災と戦災復興事業、高度経済成長と市街地再開発、バブル経済など、都市空間が劇的に再編成された昭和という時代の空間史を研究するメンバーによって構成されている。こうした時代の市街地の形成過程について、都市計画による都市空間の変容だけでなく、とくに市井の人々による商業、居住、そしてその集団による都市への関与に注目した都市史が、近年、全国各地の都市を対象に描かれつつある。都市計画や公的主体と居住者・地権者の間には都市形成に対する意識・認識のズレが常に存在するが、終戦直後はより顕著に両者の動きが衝突する時期であった。そのズレを対象化し復興と居住の相克の実態を取り上げ、光を当てる研究が、建築学以外からも取り組まれつつある。

2021年度、本若手部会では部会内で関連研究の視点、方法論の整理と情報共有を行う研究会を1回。ゲスト1名と部会構成員1名が報告を行う研究会を3回開催した。また、部会構成員の有志でのフィールドでの調査研究も開始した。具体的には次のとおりである。

2021年9月15日：第1回研究会 部会メンバーが関連研究の視点、方法論の情報共有

2021年11月13日：荒木菜見子＋石樽督和＋清山陽平＋和田路で岐阜駅前問屋街の形成史の現地調査

2021年12月8日：第2回研究会

西井麻里奈「広島復興のなかの〈不在の存在〉 都市の境界侵犯／画定を読む」

荒木菜見子「岐阜駅前戦位問屋街から見る戦後市街地空間の形成過程」

2022年1月17日：第3回研究会

砂川晴彦「市街地形成と小売市場の役割 日本植民地時代の都市空間を対象として」

和田路「戦前期の京都市における小売市場の出現とその展開 公設市場・私設市場の動向と郊外地における市街地形成過程に着目して」

2022年3月7日：第4回研究会

本岡拓哉「戦後京都における「非住宅」居住の生成 橋の下に住まう人々を対象に」

中村景月「戦後京都における寄せ屋の仕切り場の形成・変容にみる「かり住まい」の場」

第1回研究会では部会メンバーそれぞれの研究について視点と方法論、関心を共有した。第2回以降の研究会ではゲストを招いて、戦災復興過程の都市について（第2回）、戦前期の小売市場と市街地形成について（第3回）、「普通」ではない居住地の形成について（第4回）議論した。